

第 1 回小牧市教育振興基本計画検討会議会議録

1 開催日	平成28年1月27日(水)	
2 開催場所	市役所本庁舎601会議室	
3 出席した委員	会長 柴田 好章 委員 永井 勝彦 委員 今枝 健 委員 森澤 洋美 委員 丹羽 三枝子	会長職務代理者 伊藤 健次 委員 中谷 直 委員 青山 絵美 委員 舟橋 尚女 委員 長尾 英俊
4 欠席した委員	倉 知 雪 春	
5 出席した職員	教育部長 大野 成尚 教育部次長(社会教育担当) 舟橋 泉 学校教育課主幹 梶田 光俊 スポーツ推進課長 落合 健一 こども政策課係長 永井 政栄	教育部次長(学校教育担当) 伊藤 一裕 教育総務課長 松永 有紀彦 文化振興課長兼小牧山課長 村田 吉隆 生涯学習課係長 高木 晶子 秘書政策課 丹羽 勇人
6 その他の出席者	(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 江口 陽子	
7 本会議書記	教育総務課庶務係主任 五十君 有美子	
8 会議内容	(1) 教育振興基本計画について (2) アンケート調査について	

＜開会 午前10時00分＞

○教育部次長（伊藤一裕）

おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、第1回小牧市教育振興基本計画検討会議を開会致します。私は司会進行を務めさせていただきます、教育委員会事務局学校教育担当次長の伊藤でございます。よろしくお願い致します。開会にあたりまして安藤教育長よりご挨拶申し上げます。

○教育長（安藤和憲）

改めまして、みなさんおはようございます。週明けに大寒波到来で、雪の月曜日を迎えたりましたが、寒さも少しずつ和らいでまいりました。委員のみな様には大変お忙しいところ、本検討会議にお集まりいただきありがとうございます。この会議を立ち上げるにあたり、経緯と趣旨についてお話させていただきます。本市の教育推進は平成13年3月に策定の「小牧市教育ビジョン 明日の小牧の教育」が拠りどころとなっております。しかし策定時から15年近くが経過し、齟齬をきたす箇所も生じております。そのような現状で過去に小牧市教育ビジョン検討委員会が立ち上がって、しばらく機能されないまま組織が継続していた時期がございましたが、ここに来て本格的な見直しをする時期に来ており、この会議を立ち上げたという経緯です。この検討会議の趣旨は本市の目指すべき教育の在り方、いわゆる理念と目標を明示するとともに現在個々で策定しております、例えば生涯学習、文化振興、そしてスポーツ推進の各分野についてそれぞれ推進計画をつくっておりますが、これを総合的かつ系統的に一本化していく推進計画にしていきたいという大きな狙いがございます。

後1点、なぜこの時期に見直しを図るのかについて、平成27年4月1日より地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の制定に伴い、新しい教育委員会制度がスタートしております。この新制度移行に伴い、小牧市においては教育大綱の策定が義務づけられています。教育大綱策定に合わせ本来努力義務とされていましたが小牧市教育振興基本計画についても将来の小牧の教育を見据えて全面的な見直しを図ろうというものです。教育大綱は市長部局で検討されますが、教育大綱と小牧市教育振興基本計画を整合性のあるものにし、これから10年間、この振興基本計画を小牧市の教育の拠りどころとしていきたいと考えています。その教育の指針となるこの基本計画について今後検討を重ねていただきたいと思います。これから5回ほどこの会を行いたいと考えますのでよろしくお願い致します。これをもって冒頭のあいさつに代えます。

○教育部次長（伊藤一裕）

それでは次第に従いまして進めてまいります。「（2）委員の委嘱」についてですが、皆様方には大変ご多忙中にも関わらず委員の委嘱につきまして快諾を賜り、誠にありがとうございました。委嘱状についてはお1人お1人にお渡しするのが本意でございますが、時間の関係上あらかじめ机上配布致しましたので、よろしくお願い致します。それでは委員

名簿に従いまして、自己紹介をお願いします。

—委員自己紹介—

○教育部次長（伊藤一裕）

ありがとうございました。今後も小牧市の教育振興基本計画の策定にあたりまして、ご指導賜りますよう、改めてお願いを申し上げます。よろしくお願いいたします。

続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

—事務局の紹介—

○教育総務課長（松永有紀彦）

「（３）会議の運営等」、会議の公開についてであります。小牧市審議会等の公開に関する指針の規定により、本会議は原則公開としており非公開にする内容ではないため、公開させていただきます。

小牧市教育振興基本計画検討会議設置要綱により資料１の説明をいたします。

—報告— 資料１

○教育部次長（伊藤一裕）

会議の運営等について事務局の方から説明をさせていただきました。ご質問などがございましたらお受け致します。

（質問・意見なし）

質問もないようですので、次に移ります。

次第の「（４）会長の指名」について設置要綱第４条第１項の規定より、教育長が委員のみな様方から会長の指名を行います。

○教育長（安藤和憲）

検討会議の会長には名古屋大学教授の柴田好章先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育部次長（伊藤一裕）

ただいま柴田委員が会長に指名されました。ご挨拶いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長（柴田好章）

会長という大役を仰せつかることになりましたが、何分不慣れでございますので委員のみな様方のご協力を得てスムーズな運営を図ってきたいと思います。皆様方のご協力を

よろしくお願いいたします。

○教育部次長（伊藤一裕）

柴田会長、ありがとうございます。

続きまして、次第（５）会長職務代理者の指名は設置要綱第４条第３項の規定に基づき会長に指名をお願いします。

○会長（柴田好章）

会長職務代理者につきまして伊藤健次委員をお願いします。よろしくお願い致します。

○教育部次長（伊藤一裕）

伊藤委員、よろしくお願い致します。では、次の議題に移ります。資料の確認をさせていただきます。

—資料の確認—

○教育部次長（伊藤一裕）

ここからの議事の取り回しにつきましては会長をお願いします。

○会長（柴田好章）

それでは議題（１）小牧市教育振興基本計画について事務局よりご説明願います。

（１）教育振興基本計画について

—説明— 資料２ 「小牧市教育振興基本計画」の基本事項（案）

○会長（柴田好章）

スケジュールについては検討会議が来年度４回あるという事でした。

○教育総務課長（松永有紀彦）

平成27年度については本日１月27日、来年度は５月下旬、８月下旬、10月、12月を予定しております。今後の進捗により前後するかと思いますが、今後４回を予定しております。

○会長（柴田好章）

ただいまの説明についてご意見いかがでしょうか。

○委員（長尾英俊）

２ページに各計画の「統合」とあります。10年計画で大綱が作られて、それ以降統合していくということですが、その方法について具体的イメージが湧いてきません。その場で見直しをして、修正を加えてリニューアルするという捉え方をすればいいでしょうか。

○会長（柴田好章）

２ページの「統合」で「第３次小牧市生涯学習推進計画」「スポーツ振興計画」等が統合されていく事についてのご質問です。この点について事務局よりお願いします。

○教育総務課長（松永有紀彦）

本教育振興基本計画が10年の計画で、概ね平成33年度頃にその中間見直しを予定してお

ります。その中で基本計画が計画期間を終える頃になりますので、それをこの計画に入れていくと考えております。

○委員（長尾英俊）

はい。

○会長（柴田好章）

小牧市教育振興基本計画が平成29年度からスタートし、次の改定を目指す議論を平成33年度くらいから行いながら必要に応じて見直しを行い、その中で他計画との統合を図っていく見通しということです。

○教育総務課長（松永有紀彦）

会長のご説明通りでございます。「必要に応じて」と記載しておりますのは2段目にあります教育大綱が見直しされれば、見直しが必要になることも考えられることから「必要に応じて」という表現をしておりますが、10年間の中間年度には見直す見通しで、中間時点で統合する考え方です。

○会長（柴田好章）

他に質問、ご意見はございますか。

（質問・意見なし）

それでは今の意見につきまして事務局で対応についてまとめてください。

議題2のアンケート調査につきまして事務局より説明がございます。

○教育総務課長（松永有紀彦）

それでは議題（2）アンケート調査について、資料3の「小牧市の教育・生涯学習等に関するアンケート」をご覧ください。

—アンケートについて説明—

○会長（柴田好章）

ありがとうございました。資料3に基づき本振興基本計画の基礎資料作成のためのアンケート計画について設計意図の説明でした。資料も多くありますので、委員の方々にはご精通のお立場から、またそれ以外のものについてもご意見、ご質問をお願いします。

○委員（中谷直）

市民アンケートについては対象が無作為抽出と思われそうですが、小学校5年生、中学校2年生の保護者と兼ねる場合も出て来るといえることでしょうか。それから無作為と言いながら年代、住んでいる校区、地域性の違いも加味していく事になるかと思いますが、本当に無作為なのか、それともある程度バランスを取って抽出されるのでしょうか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

一般市民については記載の通り20歳以上からの無作為抽出です。小学校、中学校は500人という人数に合うように学校を選んで調査する考えです。また一般市民と児童の保護者については、無作為抽出した一般市民から対象の保護者を抜くのは困難なので、重なるこ

ともやむを得ないと考えております。それらも考慮して対象人数を決定しております。

○委員（永井勝彦）

地域性という問題で様々な地区の特性があると思いますが、その辺も無作為で選ばれるということですか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

一般市民については地域性を考慮せず無作為抽出でと考えております。ただ児童生徒、保護者は、地域のバランスも考えて学校を選んでおります。

○委員（今枝健）

児童生徒は市内の小中学校全児童にということですか。

もう1点、アンケートはどれくらいの回答があると想定されますか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

小学校、中学校各250人程度になるように考えております。具体的には小学校5年生は小牧小学校、北里小学校、陶小学校の3校で252人、中学校2年生は桃陵中学校、小牧西中学校で264人として、市内のバランスを考えて決めております。

一般市民調査の回収率についてはおおむね40%を想定しており、資料として成果が上げられるよう対象者人数を出しております。

○会長（柴田好章）

児童生徒、保護者あてには地域を限定してその学校で、という事になります。市民に関しては無作為抽出で行うという事です。

○委員（伊藤健次）

学校についてはかなり地域差があると思います。バランスという説明でしたが、そのバランスの根拠は何ですか。例えば経済的・社会的なステータスが学校により異なるのではないのでしょうか。

もう1点、児童生徒500人、保護者500人とおっしゃいましたが、アンケートをする児童生徒と保護者は対応しているのでしょうか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

まずバランスというお話ですが、昔からの地域の特性、大きく分けますと小牧、味岡、北里という地区を考慮して学校を選定しています。また、保護者についてはその児童生徒の保護者に行っていただく考えです。

○委員（永井勝彦）

少年センターも同様に、子どもの実態を掴むためにアンケート調査を行っています。小中学校合わせて500～600名くらいであり、今回の調査と大体同等な数です。学校については全小中学校に協力を依頼し、1クラスずつアンケートの結果を貰い、データを集めています。今回はそれが集中した学校に固めてということですが、どうなのかと考えます。

○会長（柴田好章）

保護者、児童生徒のアンケートを行う上で学校をある程度限定して行うというのが事務局案ですが、委員からは各学校1クラスずつの抽出が良いのではないか、というご意見が出ています。いかがでしょうか。

○委員（中谷直）

アンケートを受ける立場の代表としては集中的に学校全クラスというのと、1クラスずつばらけるのと傾向として大差はありません。より良いデータを取るというのであればバラしたほうが個人的にはいいと考えます。

○委員（長尾英俊）

アンケートは目的を持って取るわけです。「このような大綱、項目立てをしてつくりたい。」というものがあって、そのバックデータとして調査を実施するという考え方を持つと、調査もしやすいのではないですか。そうすると集中して1部の学校に依頼するか、幅広く市内全体の状況を把握する方がいいか、どちらが良いと言えませんが、大綱のイメージはいかがですか。

○会長（柴田好章）

基本計画の大枠イメージに基づいた地域設定を考えて行った方がいいというご意見でした。

○教育総務課長（松永有紀彦）

大綱をイメージした上でのアンケートというご意見も含めまして、既存計画の項目を参考にしながらアンケートの項目立てをしております。具体的には今後お出しできると考えております。アンケート調査対象となる学校については、事務局内部で十分検討いたしまして全校の1部のクラスで行うよりは、学校を絞って、例えば学校の中でアンケート調査ができればと考えながら、一部の学校の学年全員という方向で考えました。

○委員（森澤洋美）

小牧の小中学校は小学校が16校、中学校が9校と微妙な数で、30から40という多い数でもありません。桃陵と小牧西中学校、桃陵の隣には光が丘小学校や篠岡中学校もあります。桃花台には3校あり、それぞれカラーが違いますので、その1校だけの2年生をとという形を取られたなら、小牧市の教育や生涯学習に関するアンケートという冠がずれてくると考えます。元PTAの親として数多く取られた方がいいと思いました。

○委員（舟橋尚女）

事務局としては500人という数を考えて、そこに当てはまるちょうどいいところを地域性も考えながら学校を決められたかと考えました。小牧市全体の実態を把握するのであれば、各学校それぞれに分けて500人とせずに、実際の数で行えばいいのではないかと考えます。

○委員（伊藤健次）

何年前だったか社会教育の関係でアンケートを実施しました。その時に小中学生を対象

にしたアンケート結果を見て、学校間の差が大きくて愕然としたことがあります。10年以上前のことになりますが、そんなことを考えるとあまり1か所に集中してアンケートを取るとするのは変だと感じます。無作為というのが作為になっています。

もう1点、質問です。小牧市民20歳以上の2,000人に対して無作為に実施とありますが、無作為の実施方法はどうかされるのですか。

○会長（柴田好章）

児童生徒、保護者向けについては多くの委員から全校を対象にしたほうがいい、という意見が出ています。事務局提案の1部の学校だけでもいいという意見は出ておりませんので、事務局で持ち帰ってもう一度検討いただきたいと思います。

もう1点、集計の仕方も方法によっては学校間の違いが出るのではないかと、という意見が出ております。これもクロス集計する時などにどの項目と、例えば地域などをクロスして結果を見ることも考えていただいた方がいいという意見です。

私から一つ付け加えて言えば、これまでの調査の結果から、この方法でも小牧市全体の実態がほぼ正確に描き出せるという何らかの経験なり根拠があればいいと思います。今はそういったものが示されておりませんので検討いただけるかと存じます。市民についても完全無作為抽出で行うのか、地域差があるのでバランスを取って行うのか、この辺りについても事務局の方で具体的な無作為抽出の方法があれば説明願います。

○教育部次長（伊藤一裕）

課長の松永からの説明内容について補足いたします。資料2の2ページで、既存の計画について特に「第3次小牧市生涯学習推進計画」「小牧市スポーツ振興計画」「第2次小牧市文化振興ビジョン」が現在見直しとなっております。この3計画は基本的に現在生きております。平成33年度に振興基本計画の中間期の見直しを行い、この3計画を取り込む形で統合します。教育委員会でいくつか既存計画を持っており、その計画を一本化するために今回は既存計画をどこにどう取り込んでいくか、という事で最終的には「子ども読書活動推進計画」について見直しの時期に来ておりますので、本計画策定に合わせ統合するという事です。今回のアンケートにつきましては平成13年3月に作成された小牧市の教育ビジョンの現代バージョンをつくることを中心に学校教育に関する内容について重点を置くアンケートの作り込みをさせていただきます。したがって既存計画についてのアンケート内容は若干薄い状況です。そのあたりはご理解賜りたいです。

○会長（柴田好章）

今回の調査が小牧市の教育、生涯学習全般に渡るものでありながら、すでに動いている3計画と連動しているので、特にそういったところで項目について濃淡があるということです。

○教育総務課長（松永有紀彦）

一般市民の抽出の関係ですが、通常行う他アンケート調査と同様に完全に無作為抽出い

たしまして、その中から調査順序において提出された方々を抜き出すような作業をして決めるということで考えています。

○会長（柴田好章）

完全無作為抽出で行うことを考えているということですが、どうですか。そのあたりも層化抽出の方がいいかどうかシュミレーションした上での計画だと思いますが、今出ている委員の方々からの意見は地域ごとの違いなどがあれば、できるだけ反映した結果が得られた方が良く、ということです。調査票の間の中に「小学校区」というものがあり、それにあまり偏らなければいいですが、そういった懸念が出ているということなので十分な考慮と再度の検討の上進めていただきたい、というのが当会議委員の意見です。

それから具体的内容につきまして事務局から説明がありましたが、すでに動いている他計画とアンケートなども今回の基礎資料になるということで、これまでの3計画の中で十分でなかった、特に今回のアンケートは学校教育が中心にあるという事です。もちろん全般に項目がありますので全般にわたっているかとは思いますが。それを受けてもう一度改めて内容を見ていただいて、各委員の専門の立場から各項目、内容についてご意見願います。

○委員（永井勝彦）

市民用アンケート問8「満足度と重要度」についてです。先ほど申し上げた少年センターのアンケートの実態調査と子どもの満足度、住んでいる地域の満足度が10年程前と比べて12ポイントほど上がっています。現在小牧市の子どもたちが大変満足している事が分かります。その満足度の背景には住んでいる地域の特性などがあり、例えば児童館やコミュニティセンターといった役割が非常に大きいです。そういった項目が項目1から項目18までに含まれていません。児童館やコミュニティセンターなどの満足度を問うてもいいのではないのでしょうか。

○会長（柴田好章）

これはご意見という事でまとめて後で回答願います。

今のような具体的な内容で構いません。こういう項目を入れた方がいいのではないかなど項目の立て方についてもご意見お願いいたします。

○委員（舟橋尚女）

どの部分から発言すればいいですか。

○会長（柴田好章）

では絞っていきます。今は永井委員から市民アンケート項目8の内容についてご意見いただきました。市民アンケートの2～3ページが項目の方針で、具体的な内容は7ページから始まり、これが市民アンケートになります。この中でご意見がありましたらお願いいたします。

○委員（舟橋尚女）

市民用アンケート11ページ問13が答えにくいです。選択肢に小牧の特色は出ています

が、5、6については答えにくい気がします。

もう1点、市民用の問11から13、保護者用の問13から15で「世界で活躍できるようにするために」「郷土愛を育むために」「小牧市の特色」とありますが、市民用と保護者用で問いかけが変わっているのは何か意図があつてのことでしょうか。

○会長（柴田好章）

市民用アンケートの問13と保護者用アンケートの問15についてです。1点目が項目の問い方が違うということで、この違いについてということです。ご意見には出ていませんでしたが、選択肢も答えやすくしたほうがいいのではということです。事務局の方でまとめて回答願います。回答できなければ持ち帰りをお願いいたします。

○委員（長尾英俊）

市民用アンケート問10の選択肢が18ある中で3つ選択するということですが、非常に分類しにくい表現があります。例えば「責任感がある」「向上心」「思いやり」「他人を認める」など、その辺が選択しにくいように感じます。項目は細かく多い方がいいのか、絞った方がいいのか考えてしまいます。

また、「学校教育についてお尋ねします」の順番についてです。特に学校や子ども達に関心を示している環境にある方であれば意識を持って答えられると思います。しかしそうではない場合、PTAや学級委員の選考ではありませんが、上から順番に票数が下りてとなつてはいけません。それなりの意図をもって順番立てをするのがいいと考えます。

○会長（柴田好章）

問10については3つが選びにくいということと、学校教育については関心がない場合は上から2つ選ぶこともあるのではないかと、そのあたり危惧されるというご意見でした。

他にございますか。

○委員（永井勝彦）

先ほど長尾委員からもあつた問10についてです。「こんな子どもになって欲しい」というイメージを基に「あなたはどんな子どもになって欲しいか」という問いが出てきたのか、あるいはこういう問いを基に「こういった子どもになって欲しい」という振興計画のビジョンをつくるのか、アンケートはどのような立ち位置でしょうか。

もう1点は、項目立てを見ると、いわゆる通知表の行動評価によく似ています。「協調性がある」などの項目はどのように考えてつくられたのかを含めて大前提になる問いであると思います。どんな子どもになりたいか、という大事な項目です。その点も含めて項目をつくられた意図をお伺いしたいです。

○教育総務課長（松永有紀彦）

アンケートの項目については振興計画をイメージしてつくったものではなく、アンケートの結果をもとに振興計画をつくり込む考えです。

○会長（柴田好章）

そういう事からしますと、できるだけ幅広く結果を見ながら読んでいく事になります。市民用アンケートの特に問10～13あたりについて出ておりました。これについては事務局で次回に報告をお願いします。

続いて保護者用・児童生徒用のアンケート項目についてご指摘がありましたら発言願います。

○委員（舟橋尚女）

3点あります。1点目は児童生徒用の問3について、校舎や教室のきれいさや広さについての項目はありますが、他に例えば図書館、パソコンなどの項目は入れることはできませんか。

2点目、児童生徒用の問7「外国の児童・生徒との交流を深める機会」「考える機会」とありますが、「授業」ではないですか。問7が「どんな授業や勉強が自分にとって大切だと思いますか」と問いかけているので、「機会」よりも「授業」の方が子どもたちにとっては分かりやすいのではないですか。

3点目、問10の「あなたは家族以外の地域の方とどのように接していますか。」で「接している」という所が気になりました。「どんな関わりをしていますか」などがいいと思いました。自分の感覚的な問題で、こうじゃないといけないというわけではないですが。

○会長（柴田好章）

ありがとうございます。これらについても見ていただければと思います。

他にございませんか。

○委員（舟橋尚女）

もう1点、問15「文化活動をどれくらいしていますか。」という所で「（学校の授業をのぞきます）」と注意事項がありますが、クラブ活動も付け加えた方がいいのではないのでしょうか。

○会長（柴田好章）

「（学校の授業やクラブ活動をのぞく）」としたほうがいいということです。

○委員（丹羽三枝子）

児童生徒用の問7の選択肢5についてです。小牧市は「こども夢・チャレンジNo. 1都市」を掲げています。「夢や将来について」というのは分かりますが、「チャレンジしたいものはありますか」などの質問もあると、計画がつながっている印象になると思いました。

もう1点、問17で選択肢が9つありますが、「児童館」などがあると答えやすいと感じました。

○会長（柴田好章）

ありがとうございます。問7、17について検討していただきたいと思います。

○委員（長尾英俊）

運動スポーツの観点から提案があります。子ども達の学校教育での運動やスポーツなどの実態は把握できます。例えば教育委員会に調査をかければ運動活動でどんなことをしているかなど数字が出てくると思います。それ以外がどうなっているか尋ねたい項目だと思います。運動やスポーツといっても子どもたちが「遊びは違うのか」と思う事があってはいけません。遊びも立派な運動活動になり、むしろ小学生はスポーツよりも遊びの方に多くの時間を費やしていると思います。昔ほど野原で駆けずりまわって、ということが減ってきたとはいえ、そうしたこともあるならばそれも加味すべきだと思います。把握できない子どもたちの自由活動の時間を知りたいということであれば、それに対応する子どもたちに分かりやすい言い方を表現に入れていくといいと思います。

○会長（柴田好章）

スポーツについて遊びなどで体を動かすことも加えないと答えにくい、というご指摘でした。

○委員（舟橋尚女）

「6 その他」で「学校について思っていることを自由に書いてください。」とあります。「学校」と限定してありますが、地域、小牧市の事なども入れて、要望や満足度に対する意見を聞けるようにするといいと感じます。最初の「調査のお願い」で、「アンケート結果を小牧市の学校づくり、まちづくりに生かしたい」と書いてあるので、そのように考えました。

○会長（柴田好章）

学校生活やその他の学習活動やスポーツ全般について自由に答えやすいように項目をつくるということです。

それではただいま出ました意見について事務局でより良いアンケートになるようにつくっていただければ、と思います。事務局でアンケートについての対応をご回答願います。

○教育総務課長（松永有紀彦）

いろいろ意見をいただきました。保護者に対するものがありますので、全体を通して最後に対応をお答えしたいと思います。

○会長（柴田好章）

保護者も両方聞いたつもりです。

○委員（永井勝彦）

保護者アンケートの問19-1の項目で「携帯、スマートフォン、インターネットなどの使い方に不安を感じる」という選択肢がありますが、例えば携帯やスマートフォンを小学5年生であれば持っているし、それに対しての自分の意見も持っていると思います。そういった項目が子どもの方には見当たらない、と感じました。いじめなどの原因にもなるし、学校生活に随分絡んでくる問題です。いかがですか。

○会長（柴田好章）

これについてはどれくらい利用しているかという実態も項目出しして聞いた方がいい、というご意見です。これは児童生徒用にも関係してくるかもしれないという事で、この辺り重要な問題だとお話がありました。

○委員（長尾英俊）

親御さんの思いとしていじめや様々な人間関係のことがあると考えます。問19－1の選択肢8で、親としては子どもの友人関係やいじめに関することを具体的な言葉で表現すると丸が付けやすいと感じます。この言い方は薄くなっている気がしますので、今言ったような具体的な表現にしたほうがいいと思います。

○会長（柴田好章）

いじめや不登校まで具体的にまだ心配が見えているわけではないが、それに繋がるような友人関係で心配をしている方々も多いのではないかと予想され、そういうところも聞けるようにということです。

○委員（中谷直）

それぞれの自由記述欄について先ほど舟橋委員がおっしゃられたように、例えば「学校について好きな事を」というと本来のアンケート目的外のことまで書かれる気がします。学校でもこういうアンケートを取りますが、辛辣な意見もあります。それを取り上げなければいけなくなることも、十分考えられます。もちろん無記名ですから書いた本人もすぐ即答されるものではないと思っているのですが、書かれた人はこれを訴えたので何らかのアクションがあるだろうという待ち構えた姿勢も出てきます。何でもいいではなく、アンケートの目的を最後の所でもう一度「何々のためにあなたの意見を聞かせてください」と変えていただくと、アンケートの目的から外れた記述意見に学校が対応に迫られるようなことが防げます。本来の趣旨とは別になってしまう恐れもありますので、あえて付け加えていただけると助かります。

○会長（柴田好章）

何かいいアイディアはありますか。

○委員（中谷直）

例えば児童生徒のアンケートでも「小牧市の学校づくりやまちづくりに生かしたい」というアンケートですから、それが「6 その他」で「学校について」となっており、例えば担任の話などが当然出てきます。そうではなく、「小牧の学校はこうであってほしい」という願いが書かれるなどプラス方向の意見が書かれる工夫が必要かと考えます。

○会長（柴田好章）

小牧市の教育を一緒に良くしていこうというスタンスで、もちろんアンケートですからお願いして書いてもらいますが、その一方でプラスに向けた意見を一緒に考えたいという案です。

○委員（長尾英俊）

全体に関わることです。地域のおじさんが「地域や学校を支えるために行うと良い事を書いてください」とあって、その次に「あなたは何をしていますか」という順序です。

「あなたは何をしていますか」「子どもや地域のためにどんな活動をしていますか」と聞いて、その次に「どうあるべきでしょうか」と聞いた方が心に響き、実態が把握できやすいと考えます。

他人事で「あるべき姿」を述べることはよくありますが、自分に向けた時にどう答えるか、というのは順序が変わることによって随分意識が変わると思いました。

○会長（柴田好章）

大学の授業でも同じで、「授業どうでしたか」と意見はもらい、「あなたたちはこの授業のために何か努力しましたか」と突っ込むようにしています。そういったところで小牧の教育、子育て、まちづくりのために行っておられることを振り返っていただく事であってもいい、という事だと思います。

そういったことで事務局の方から回答を連絡願います。

○教育総務課長（松永有紀彦）

ただいまたくさん貴重なご意見をいただきました。今後アンケートにつきましては2～3月に実施して、次回5月に会議を予定しております。そこでアンケート結果を報告する予定です。よって今回いただいた意見につきましてはその対応をまとめさせていただいて、各委員に送付させていただくという事でご了解願います。

○会長（柴田好章）

ありがとうございました。今日のご意見をできるだけ活かす形でアンケートを行っていただいて、どのように生かしたか生かせなかったかは事後に報告いただく形ですのでよろしくをお願いします。

それでは以上で本日の議題は全て終了いたしました。委員の皆様方には闊達なご意見、ご協力をありがとうございました。

では進行を事務局にお願いいたします。

3. その他

○教育部次長（伊藤一裕）

次回「第2回教育振興基本計画策定会議」につきましてはアンケート結果の報告と計画の骨子案、施策体系案の確認、検討を議題といたしまして、5月下旬の開催を予定しております。また事務の進捗状況により前後することもありますので、ご了承いただきたいと思います。また改めて開催について通知させていただきます。

○教育部長（大野成尚）

本日は様々なご意見をありがとうございました。いただきましたご意見を基本に再考した後にご報告するとともに、十分なアンケートになりますよう努めてまいります。よろし

くお願いいたします。

○教育部次長（伊藤一裕）

それでは全体を通しまして、ご意見、質問もないようですので「第1回 小牧市教育振興基本計画検討会議」を閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。

＜閉会 午前11時36分＞